

【問い合わせ先】

島根県病害虫防除所 [担当：奈良井]

TEL：0853-22-6772

FAX：0853-24-3342

平成28年度 病害虫発生予察情報 技術資料第3号

平成28年5月2日
島根県病害虫防除所

イチゴにおけるアブラムシ類の発生状況について

現在、イチゴのアブラムシ類（主にワタアブラムシ）の発生は、発生ほ場率、寄生株率とも平年に比べて高く推移しています。現地では発生状況の把握に努めるとともに、薬剤散布など適切な防除対策をお願いします。

記

1. 現在の発生状況

- 1) 平成28年4月下旬の巡回調査における発生量は、ほ場率55.6%（平年20.2%）、寄生株率13.3%（平年3.2%）と多かった。
- 2) 1ヶ月予報（4月28日広島地方気象台発表）によると、向こう1か月の平均気温は、高い確率が70%であり、アブラムシ類の発生に適した気象条件が予想される。

2. 防除対策および防除上の注意事項

- 1) アブラムシ類は部分的に発生することがあるので、ほ場全体をよく観察し、発生を認めたら直ちに防除する。
- 2) 薬剤散布後はルーペ等を用い、必ず効果の確認を行う。
- 3) ワタアブラムシは葉裏よりも果実のヘタ部やクラウン上部の葉に寄生することが多いので、これらの部位を中心に調査すると発生が的確に把握できる。



左：ワタアブラムシの寄生状況、
右上：無翅胎生雌虫、右下：有翅胎生雌虫

3. 薬剤防除（農薬登録内容は平成28年4月28日現在）

- 1) 薬剤の選定に当たってはミツバチ等訪花昆虫への影響を十分に考慮する。
- 2) 薬剤の使用に当たっては、農薬ラベルに記載の使用方法・注意事項を確認のうえ使用する。また、薬剤散布は周辺作物への飛散に十分注意する。
- 3) 使用の際は同一系統（IRACコード）の薬剤の連用は避ける。

表1 イチゴのアブラムシ類に使用できる主な薬剤

系統 ※ (IRACコード)	薬剤名	希釈倍率等	使用時期	使用回数
4A	モスピランジェット	50g/くん煙室容 積400m ³	収穫前日まで	2回以内
	モスピラン水溶剤	2000倍	収穫前日まで	
4A	バリアード顆粒水和剤	2000倍	収穫前日まで	3回以内
4A	ベストガード水溶剤	1000倍	収穫前日まで	3回以内
9B	チェス顆粒水和剤	5000倍	収穫前日まで	3回以内
9C	ウララDF	2000～4000倍	収穫前日まで	2回以内
21A	ピラニカEW	2000倍	収穫前日まで	2回以内
21A, 1A	シーマジェット	75g/くん煙室容 積400m ³	収穫前日まで	2回以内
21A	ハチハチフロアブル	1000倍	収穫前日まで	2回以内
21A	サンマイトフロアブル	1000～1500倍	収穫前日まで	1回以内
28	ベネビアOD	2000倍	収穫前日まで	3回以内
28	モベントフロアブル	2000倍	収穫前日まで	3回以内
un	コルト顆粒水和剤	3000～4000倍	収穫前日まで	3回以内

※IRACコードとは殺虫剤を作用機構別に分類してつけられたもので、同じIRACコードの薬剤を連用すると殺虫剤抵抗性の発生リスクが高まるので、薬剤選択の際は注意する。なお、IRACコードについては農薬工業会ホームページで最新の情報が確認できる。

農薬工業会ホームページ <http://www.jcpa.or.jp/lab0/mechanism.html>